

ソルパットによる衛生管理向上と コストダウンのご提案



手袋除菌システム ソルパット® mini-WR



世界初

紫外線による手袋除菌装置

紫外線の中でも最も殺菌効果が高い波長(254nm)を採用

わずか3～4秒間照射するだけで、「ノロウイルス」「大腸菌O157」「黄色ブドウ球菌」などの食中毒原因菌を除菌・不活性化させる装置です

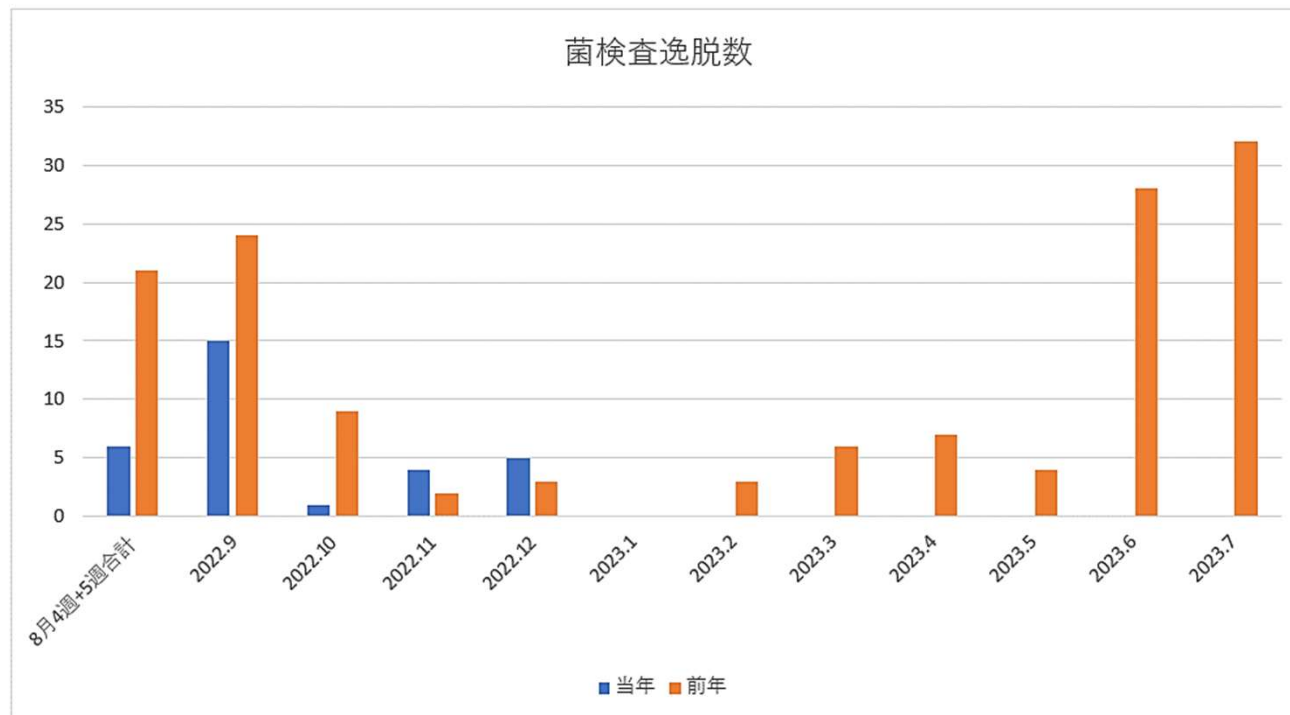
特徴

- 短時間で圧倒的な除菌効果：3～5秒で除菌完了。連続挿入可能。
- 非接触での除菌：手を入れるだけで起動。汚染リスクの低減。
- ドライ除菌：手袋除菌用のアルコール、次亜塩素酸、エータオル、ペーパータオル不要。
- 省スペース：壁掛け、移動式ラック（H：1600 W：495 D：500）
- 安全性：正しくお使いいただくことで、紫外線による健康被害の心配はございません。

導入事例 ① 菌逸脱数の大幅減少

P 3

(株) S 社様 (2022年8月導入。食品工場スタッフ 約110名のうちの約4割が外国籍)



| | 当年 | 前年 | 減少率(%) |
|-----------|----|----|--------|
| 8月4週+5週合計 | 6 | 21 | 71% |
| 2022.9 | 15 | 24 | 38% |
| 2022.1 | 1 | 9 | 89% |
| 2022.11 | 4 | 2 | -100% |
| 2022.12 | 5 | 3 | -67% |
| 2023.1 | 0 | 0 | |
| 2023.2 | 0 | 3 | 100% |
| 2023.3 | 0 | 6 | 100% |
| 2023.4 | 0 | 7 | 100% |
| 2023.5 | 0 | 4 | 100% |
| 2023.6 | 0 | 28 | 100% |
| 2023.7 | 0 | 32 | 100% |

<(株) S 社様の見解>

- * 2023年に入ってから「菌逸脱」は出ていない。
- * 全てがソルパット導入による結果ではないが大きな要因の一つである。
- * 2022年11、12月は作業増員期間であり教育不十分の面がある。

⇒ 食品ロスの減少
=SDGsにつながる

導入事例 ② 入場時間の大幅減

P4

(株) A 社様 (2022年9月導入。食品工場スタッフ 約40名)



スタッフ1人につき

手袋装着後の手洗いに 約50秒 かけていた

(休憩等による再入場が1日に約4回)

4回 × 50秒 = 200秒 → 40人 × 200秒 = 8000秒(約130分)費やしていた



ソルパット導入後は 約5秒 に大幅短縮

スタッフ1人の入場時間を

45秒短縮

(1日4回 × 45秒 = 180秒 → 40人 × 180秒 = 7200秒(約120分:2時間))

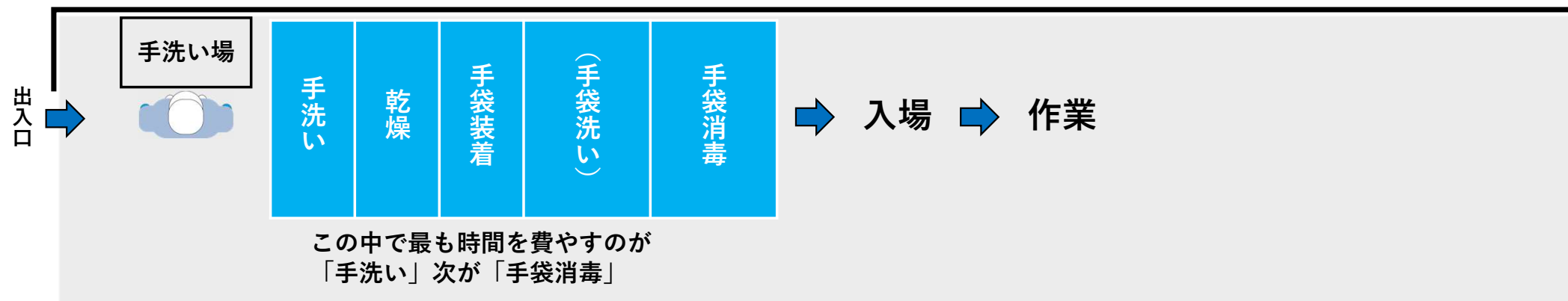
プラス

+ 2時間の余裕が生まれた

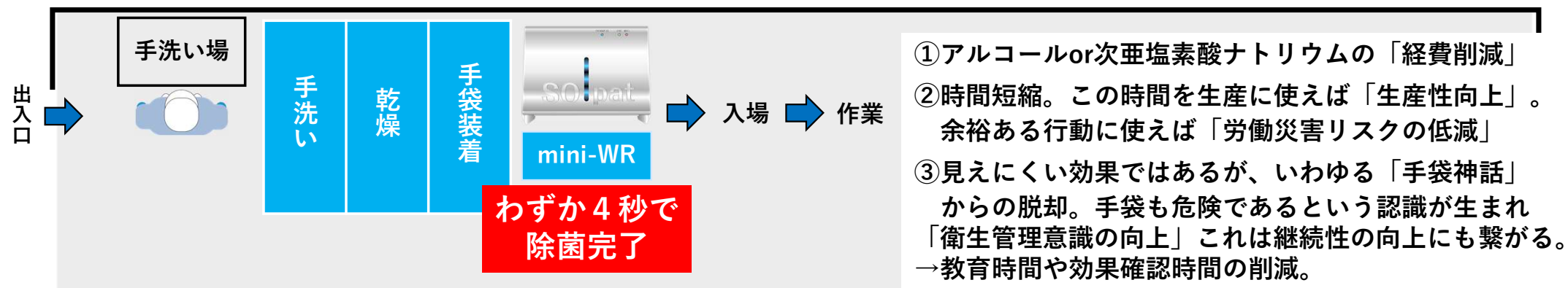
提案 「人」に頼るのではなく「機械・装置」に任せる

P5

例えば生産現場への入場手順として



この手袋消毒を「mini-WR」で行ったとすると



- ・ ルールの多さ。（追加、追加となる傾向であるため時間が増えていく）



【手洗いの手順（厚生労働省）】

- ・ その都度の資料作成（掲示物の多言語対応）

→衛生管理者、品質管理者の負担増。

加えて入れ替わりが多い事による教育回数と時間の増加。

- ・ 教育の効果確認（継続性の難しさ：外国人労働者に限らず）

（膨大な時間を費やしているにも関わらず・・・）

これが現実ではないだろうか

「人」に頼るのではなく「機械・装置」に任せる



機械・装置のメリットの一つは「同じ動作を繰り返せる」つまり継続性。
デメリットはコスト高。

* コストがかからない装置を導入すれば、新たな対策がとれる。

しかしコストのかからない装置はない。

特に衛生管理部門に対する装置導入は敬遠されるケースが多い。

* **衛生管理部門でもコストメリットが見込める装置であればどうか。**

手袋除菌は現状アルコール、次亜塩素酸ナトリウムが主流であるが、
価格高騰、除菌時間、個人差などが問題視され始めている。装置導入
することにより、これらの問題はコストメリットを出しながら是正できます。

mini-WRは衛生管理レベルを下げる事なくコストメリットを出せる可能性を持った装置である。

お問い合わせ先
(株)ワークソリューション
TEL : 0265-96-7433
<https://www.worksolution.co.jp>